

ありがとうを伝えたい

佐賀県

嬉野市立久間小学校四年

尾島 諒

「諒ちゃん、おねがーい」その言葉でぼくのスイッチが入る。ぼくは、夜になると毎日決まってることがある。

ぼくは、お母さんのかたをたたくのが日かになつていく。

ぼくがかたをたたき始めると、お母さんは、いつも「あー、ごく楽、ごく楽」と言う。

そして、もう少したたくと、お母さんは決まって「あー、しふくの時」と言う。ぼくは、しふくの時つてどういう意味なんだろうと思つていた。

そして、最近になつて「しふくの時つてどういう意味？」と聞いてみた。すると、「最高に幸せな時間よ」つて教えてくれた。ぼくは、その言葉の意味を知つてからかたをたたくのが楽しみになつた。

お母さんもぼくのかたをたたくを楽しみにしているのかな。

今日は、月曜日。1週間の始まりだ。いつもより少しサービスしようかな。ぼくはいろんなことを考えながらかたをたたく。そして、かたをたたきながら、もうそろそろあの言葉が出るころかなと思う。「あー、しふくの時」。いつものようにその言葉が出ると、ぼくは心の中で「よし！」と思うのだ。

お母さんは、かたをたたいている間、「気持ちよかー」と何回も言つてくれる。それを聞くとぼくはうれしくなつていつそう手に力が入る。あと100回ぐらいサービスしようかなと思う。たたき、もみ、ツボおし。足ふみ。いろいろワザを出す。最後の足ふみまでいくと、たいていお母さんはねてしまう。

ぼくのお母さんは市役所で働いている。お母さんは市役所でふくしの仕事をしている。夕方おそく帰つてきて、それからぼくたちにおいしいごはんを作つてくれる。お母さんの仕事は大変なんだろうな。つかれているんだらうなと思う。お母さんは朝からねるまでいつも動いている。お母さんの一日はとても長い。ぼくは、お母さんの一日の終わりを最高に幸せな時間にしてあげたいと思う。

お母さんおつかれさま。そして、いつもありがとう。

今日もぼくは、あの言葉を聞きたくてかたをたたくのだ。